

1 全体計画

学校の教育目標
 自発性を伸ばす 実践力を身につける 連帯感を深める



平成29年度学校経営方針
 栄光ある三中の歴史を閉じ、その伝統を統合新校へと継承する。



本校の捉える「確かな学力」
 学ぶ意欲と基礎的・基本的な学力に支えられた思考力・判断力・表現力。



平成29年度の指導の重点

<p><各教科> 基礎的・基本的な学習内容の確実な習得のため、見通し・振り返り学習活動の充実を図る</p> <p><道徳> 道徳の時間を中心とし、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる</p> <p><特別活動> 生徒が主体的・意欲的に参加・活動できる工夫をする</p>	<p><総合的な学習の時間> 「共存・共生」をテーマに全教科との関わりの中で、自己の生き方を考えさせる授業を展開する</p> <p><生活指導> 礼儀や挨拶など基本的生活習慣の育成を図る 生徒の自主性を育てる</p> <p><進路指導> 生き方指導を充実させ、望ましい勤労観・職業観を育てるとともに、主体的に進路を選択できる能力の育成に努める</p>
---	---



授業改善の視点				
指導内容・指導方法の工夫 ・見通し・振り返り学習活動の充実 ・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善	教育課程編成上の工夫 ・実授業時数の確保 ・教育相談の実施	評価の工夫 ・指導と評価の一体化 ・評価基準の明確化	校内研究・研修の工夫 ・研究授業の実施 ・授業相互観察の実施	家庭・地域との連携の工夫 ・各定期考査前補充教室の実施 ・全学年、年4回の成績通知

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

<p>国語科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字を覚え基礎的な知識を定着させる。 ・4つの力をバランスよく学習させる。 ・自分の考えを表現できるようにさせる。 ・さまざまなジャンルの文章を読むことで、語彙力を向上させる。
--

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果においては、目標値に対して、「書くこと」がやや下回っている。 ・「書くこと」に関しては、個人差が大きい。 ・「漢字の読み書き」が、力不足のようである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文や文章を「書くこと」に苦手意識を持っている生徒が多い。 ・小学校高学年時の漢字力の差が大きい。 ・語彙を増やすことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」活動を増やし、「書く」ことに対する抵抗を減らしていく。 ・日々の「漢字」の取り組みを継続させる。 ・辞書を活用し、反復練習を行う。語彙を増やし、定着を図る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果においては、目標値に対して、「読む能力」は上回っているが、それ以外が下回っている。特に「書くこと」と「言語について」が目標を4ポイント前後下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校までのものと、中学校で新出のものにおいて、漢字力の差が大きい。 ・文法における基礎力の差が大きい。 ・形式に沿った文章を書くことに慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校までの漢字力の強化だけでなく、中学での新出漢字の学習に時間を割くようにする。 ・1年次に取り組んだ文法の総復習を行うとともに、定期的に学習をさせていく。 ・自由作文だけでなく、課題を設けて書く練習をさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果においては、目標値に対して、どの観点も上回っている。特に「話す・聞く」力は優れている。 ・「書く」も全体的には、目標値を上回っているが、「作文」が課題として挙げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み・書きにおいて、「読み」の力が弱いようなので、対策が必要である。 ・文章を書くことが「嫌い」「苦手」という生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業時に行っている、「漢字の読み書き」の取り組みを継続させる。 ・普段から書く活動を取り入れ、「書く」ことに対する抵抗をなくしていく。

(2) 社会科

<p>社会科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材を工夫して、意欲的に学習する姿勢を育てる。 ・資料や統計を多面的多角的に考察し、多様性を見出し意見や主張から言語活動の充実を図る。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの領域で目標値に到達しておらず、基礎基本の定着に課題がある。 ・地理的分野では、農水産業に関する問題で目標値から下回っている。 ・歴史的分野では、古代に関する問題で目標値から下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分野での関心意欲を伸ばし、基礎学力を定着させ、大きな時間の流れをつかませる必要がある。 ・自分の意見や考えをまとめ、それを表現することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の復習や基本問題の反復学習、宿題や課題への取り組みを通して、基礎基本の知識・理解に関する定着の徹底をはかる。 ・自分の意見や考えをまとめ、発表することで思考力・判断力・表現力を深めさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的分野では、多くの領域で目標値に到達しており、基礎基本が定着できている。 ・歴史的分野では、多くの領域で目標値から下回っている。特に、古代から中世に関する問題で目標値から下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的分野では、世界の諸地域に関する問題の正答率が目標値に届いておらず、既習事項の復習が必要である。 ・歴史的分野では、飛鳥時代から平安時代の問題の正答率が目標値に届いておらず、既習事項の復習が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の復習や基本問題の反復学習、宿題や課題への取り組みを通して、基礎基本の知識・理解に関する定着の徹底をはかる。 ・班活動やペアワークなどの話し合い活動を取り入れた授業を実践することで、思考力・判断力・表現力を定着させる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的分野でも歴史的分野でも、すべての領域で目標値に到達しており、基礎基本が定着できている。 ・観点別にみると、社会的事象への関心・意欲・態度の観点が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的分野では、日本の諸地域に関する問題と身近な地域の調査に関する問題の正答率が目標値を若干上回るにとどまった。 ・生徒間での学力差が見られ、全体的な底上げが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を更に深め、学習内容を反復させながらワークに取り組み、全体的な底上げをはかる。 ・班活動やペアワークなどの話し合い活動を取り入れた授業を実践することで、思考力・判断力・表現力を定着させる。

(3) 数学科

<p>数学科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本となる計算力の向上、定着を図る。 ・数学的な活動を通じて、見方・考え方を養う。 ・対話活動を充実させ、より深い学びを目指す。 ・習熟度別少人数授業を通して、個に応じた指導の充実を図る。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>学力に関する調査では、目標値を若干上回ったが、区の平均を 1.3% 下回っている。単元別に見ると、図形分野で大きく下回っている。</p> <p>また、指摘・説明する問題の無回答率が 10% を超えていることも、課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の面積や体積を求める力を向上させること。 ・基礎的な計算の習熟度の低い生徒の、習熟度を高めること。 ・友達の考えを聞き、理解する力、自分の考えと比べると同時に、自分の考えを伝える力を高めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、授業の最初に 3 分間の基礎・基本的な問題演習を行う。その中で基礎的な計算能力の向上、図形分野の復習、意欲向上へのアプローチを行う。 ・日々の授業の中で、聞く・考える・伝える活動や、学び合い活動を積極的に取り入れる。
2年	<p>中野区学力にかかわる調査の結果、平均正答率において目標値と同程度ではあるが、区の平均を 6.0% 下回っている。</p> <p>特に関数の領域では目標値を下回っていることから、比例と反比例の指導が課題であると分析される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な計算力を向上させる。 ・自分の意見を発表し、他の人の意見を聞く、学び合いの時間と学習のまとめをする時間を確保する。 ・比例や反比例の内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、授業の最初に 3 分間のドリル計算を行い、基本計算の復習を充実し、さらに基礎学力の向上と定着を図る。 ・授業の中で、自分の意見を発表する場面をつくり、ノートに毎時間学んだことをまとめる指導をする。 ・1 次関数を指導する際、比例と反比例と関連付けて指導を行い、理解を深められるように指導をする。
3年	<p>学力に関する調査では、目標値を 6.5% 上回っているが、区平均正答率は 1.2% 下回っている。</p> <p>計算、図形、証明においての差はあまりないものの、1 次関数と確率の平均正答率が低く、理解が不十分であることが分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な計算力を向上させる。 ・自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを聞くことで、内容の理解を図る。 ・関数や確率の内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、授業の最初の 3 分間のドリル計算を行い、基本計算の復習を充実する。確率の復習も行う。 ・授業の中で、自分の意見を発表する場面を作る。また、自己評価カードを通して振り返りをさせる。 ・関数を指導する際、関数の特徴をつかみ、グラフからの読み取りを丁寧に行う。

(4) 理科

<p>理科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教材・単元について、身近な事象から、観察・実験材料をさがし、興味・関心を持たせる。 ・観察・実験を通して不足している体験を補完し、身近な現象をより深く理解させる。 ・協同学習と個別指導を組み合わせ、個に応じた指導をすすめる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力に関する調査では教科正答率で目標値を 2.4 ポイント上まわっている。区平均は 0.5 ポイント上まわっている。 ・基礎は目標値・区平均ともに若干上回っているが、活用については区平均より若干下まわっている。 ・科学的な思考力・表現力が弱い。 	<p>理科に対する関心を深め、基本的な学習事項の理解につなげ活用力を伸ばしていく。</p> <p>友達の考えを聞き、理解したり、自分の考えと比べたりすると同時に、自分の考えを伝える力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象が日常生活と深くつながっていることを意識させ、理科に対する関心につなげるような働きかけをする。 ・授業では、基本項目を確認した上で、暗記学習にならないように「なぜそうなるのか」を考え理論をもとに説明する。 ・生徒が自分の言葉で学習内容をまとめる場を設ける。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学力に関する調査では教科正答率で目標値を 4.8 ポイント下まわっており、区平均にも 6.3 ポイント及ばない。 ・特に基礎が区平均を 3.5 ポイントと大きく下まわっているが、活用も 13.4 ポイントと大きく下回っている。 粒子分野と地球分野について学習を深める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の分野では植物の分類について基本事項の確認をさせる。 ・水溶液の性質と物質の状態変化について粒子モデルを利用して理解を深めさせる。 ・地層・火山については岩石の特徴や成因の違いについて確認させる機会を作る。 ・帰国生や外国籍の生徒が多く未履修の内容がモザイク状にある生徒について学習補充する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の学習が理科学用語の暗記にならないよう、実験を通じて自然現象を確認させたいうえで、「なぜそうなるか」という理由を理解させる。 ・粒子モデルなど次年度につながる内容については、系統性を大切にして指導する。 ・授業では、基本項目を確認した上でつながりを理解できるよう筋道を立てた説明をする。 ・生徒が学習内容を自分の言葉でまとめる時間を作る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学力に関する調査では教科正答率で目標値を 3.5 ポイント上まわっているが、区平均にはわずか 0.3 ポイント及ばなかった。 ・基礎は区平均に-0.3 ポイント、活用で-0.2 ポイントとかなり平均に近づいている。 領域別では粒子の分野が-1.7 ポイントであり、正確に覚えることを含め学習を深める必要がある。他の3分野は目標値を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気の性質については電流・電圧の働きを明確にした上で直列・並列についての場合分けをする必要がある。 ・粒子の分野では観察で確認できる化学変化と化学式、化学反応式など理論的な考え方を結びつけることが大切である。 ・気象の分野では前線と天気、雲の成り方について基礎からの見直しが必要である。 ・帰国生が多い為、実際に実験をしたことがない生徒がいる。未履修の内容がモザイク状にある生徒について学習補充する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一、二年の復習を含め、身のまわりで起こっている現象を深く理解できるよう具体的に指導していく。 ・暗記に頼るのではなく、筋道を立てて考えられるよう指導する。 ・電気分野や気象分野では現象の確認にとどまらず、定量的に考えるよう指導する。 ・単元を超えて確認をすることで、総合分析力を高めるとともに基本的な内容の確認ができるようにする。 ・生徒が学習内容を確認し、思考を整理するために、自分の言葉でまとめる時間を作る。

(5) 音楽科

音楽科の重点

- ・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。
- ・音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばす。
- ・音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動にも鑑賞活動にも、意欲的に音楽活動に取り組んでいる。 ・表現活動（歌唱）において、変声期のために表現の工夫が困難な状況が一部に見られる。 ・表現活動（器楽）において、基礎が身につけていない生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を高め、豊かな表現活動の工夫をさせる。 ・声を出しやすい環境作りを心がける。 ・表現活動（器楽）の基礎基本を確実に身に付けさせるとともに、発展的な内容も取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声が出しやすく、音楽の美しさを感じられる教材選びを工夫する。 ・変声期について、理論だけでなく鑑賞教材を工夫し、理解を深められるようにする。 ・器楽の指導において、グループ活動を取り入れ、生徒同士の能力を高められる機会を設ける。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に音楽活動に取り組んでいる。 ・鑑賞活動において、感じたことを表現する能力に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を高め、より豊かな表現活動の工夫をさせる。 ・鑑賞における目標や課題を明確にし、具体的なイメージを持てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現の楽しさや美しさを感じられる教材選びを工夫する。 ・鑑賞活動において、ワークシートやグループ活動での言語活動を充実させることで、より豊かな表現力を身に付ける。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して、意欲的に音楽活動に取り組んでいる。 ・鑑賞活動において、表現する力が伸びてきている生徒が多い。 ・表現、鑑賞に偏らない、幅広く音楽の美しさを感じ取ることのできる能力を高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を高め、より深く、豊かな表現活動の工夫をさせる。 ・言葉で表現する活動を増やし、感受の多様性を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱の響きが体感しやすく、歌詞の内容と音楽の構造が結びついた、生徒が共感しやすい教材を選び、歌唱表現の能力を伸ばす。 ・様々な形態でのグループ活動を取り入れ、聴き合う体験を増やす。

(6) 美術科

美術科の重点

- ・創造活動の喜びと美術を愛好する心情を育てる。
- ・感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばす。
- ・美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいる。 ・一部、集中力に欠ける生徒がいる。 ・この1年間で基本的な描き方や色彩、知識を身につけさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくり取り組む生徒と作業の早い生徒との進度の差がある。 ・鑑賞活動において、発言が多く積極的にこなしているが、私語が多くなりがちである。 ・基礎基本を確実に身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作に見通しをもたせ、この授業内で何をすべきなのか、わかりやすく提示する。 ・授業規律を徹底し、話を聞くとき、活動するときの切り替えを意識させる。 ・題材内に基礎的な課題を組み込み、繰り返し学ぶ機会を用意する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいる。 ・豊かな発想力はあるが、それを作品として完成させることに至っていない。 ・決められた期日までに計画的に進めることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の完成度を上げていく中で、「この程度でよい」と考え、作品制作を終える生徒がいる。 ・決められた期日までに制作を終えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の関心を引き出す声かけをし、生徒がより良い作品制作を目指せるようにしていく。 ・毎時間、その日の達成目標を明示し、意識しながら制作に取り組めるようにする。また、授業の終わりに振り返りをし、進み具合を確認し、次回に生かすよう指導する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が意欲的に取り組んでいるが、苦手意識が強い生徒もいる。 ・決められた期日までに計画的に進めることが苦手である。 ・中学での美術が授業としては最後の生徒がいる。美術を身近なものとして感じ、生涯を通じて美術に親しむ心が持てるように指導したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・能力が高く、集中力の高い生徒が多くいるが、能力が低く集中力に欠ける生徒がいる。 ・制作の進み具合に大きな差が出やすい。 ・生涯学習としての美術文化の継承と創造への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標を具体的に目で見て確認できるようにし、作品例などを提示する。 ・生涯学習を見通した美術鑑賞や作品制作で見方、感じ方を深める。普段の生活の中に授業で養った美の感覚を取り入れることで生活が豊かになることを伝える。

(7) 保健体育科

<p>保健体育科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力をつけさせるとともに、運動の楽しさを味あわせる。 ・集団行動を身につけさせ、安全に活動できるようにさせる。 ・考えて運動に取り組む態度と意欲を向上させる。
--

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に取り組んでいる。体力テストの結果では、男子は、全国平均とほぼ同じであるが、柔軟性が低めである。女子は、全国平均とほぼ同じであるが、投力が低めである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女とも、集中力が低く、話が最後まで聞くことができない。運動は好きだが、技能向上のために工夫したり、考えたりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りや単元毎にワークシートを活用したり、自分の言葉を使って話すなどの活動を取り入れる。 ・準備体操でしっかりストレッチを行い、柔軟性を高めることの効果を意識づける。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目に取り組んでいるが、自主的に取り組もうという意欲が弱い。 ・体力テストの結果では、男子は、全国平均より全体的に劣っている。特に、瞬発力が低い。女子は、全国平均とほぼ同じであるが、持久力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言われたことだけをやるが多く、自分から取り組ませようとするが、行動が遅かったり、止まってしまうことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題や、やるべきことをしっかり把握させる。 ・振り返りで自己評価、相互評価等を取り入れ、活動状況を理解する機会をつくる。 ・補強運動でジャンプ系の種目を取り入れ、瞬発力を高める。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に意欲的な生徒が多いが、苦手な種目には取り組み方に課題がある。 ・体力テストの結果では、全国平均と比べて、男子は全体的に劣っている。女子は、ほぼ同じである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組むが、はじめがつかず、指示が通りにくい。 ・持久的な運動には消極的である。 ・男女とも、投力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況を自己評価、相互評価で確認・理解する機会をつくる。 ・補強運動で持久力を高める運動を継続的に取り入れていく。 ・球技の単元で、ボールを投げる運動を取り入れ、体力の向上を図る。

(8) 技術・家庭科

技術・家庭科の重点
 生活に必要な基礎的・基本的な知識、技術を習得して、課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、問題を進んで解決していく能力を養う。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・製作への意欲が高く、お互いに協力して取り組んでいる。しかし、作業内容などの説明をじっくりと聞いていることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の説明など、集中して最後までしっかりと話を聞くことができない。 ・目的を達成するための手段の工夫の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工程表や振り返りシートを活用して、どの作業が必要なのか明確にしていく。 ・失敗をしたときにすぐに解決策を提示するのではなく、まずは自分で考えるように指導する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目に取り組んでいるが、自分から積極的に取り組もうとする意識が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言われたことしか取り掛かれず、自分の考えで工夫して、作業に取り組むことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りやペア間での相互評価で工夫を取り入れた活動を意識させる。 ・すぐに解決策を提示するのではなく、まずは自分で考えるように指導する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・製作意欲は高いが、自分の中にあるものを表現することが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の外観など、個人で行うデザインの作業などで、自分の考えがまとめられずに手が止まってしまうことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価などを取り入れて、他者の作品を見る機会を増やすことで、自分の制作イメージを広げさせる。

(9) 英語科

<p>英語科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語で交流する楽しさや意義を体験させる。 ・ことばと文化の結びつきを理解させ、外国及び日本の生活・文化を考えさせる。 ・自主的に学習に取り組む方法を身につけさせ、仲間と協働して学習に取り組む技能を身につけさせる。
--

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌や会話等の表現活動を楽しみ学習に取り組んでいる。 ・積極的に英語を使い、コミュニケーションをはかろうとする姿勢がある。 ・授業に前向きに取り組んでいるが家庭学習が定着していない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な単語や文の力を身につけさせるために、語彙力、文章力を高める指導を増やす。 ・家庭学習の定着のために、学習方法を具体的に指示する必要がある。 ・前向きな姿勢を継続できるよう自信を持たせる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯学習の中で「書く」「話す」の表現活動の機会を増やし継続して英語に楽しめるようにする。 ・ビンゴ（毎時間）、スペリングコンテスト（長期休業後）を行い語彙定着を図る。 ・後期から教科書の予習（予習ノートの作成）を定期的な課題とし、家庭学習の定着につなげる。 ・文法の復習時に基礎的な自己表現活動（作文やインタビューテスト等）を設定し、自信を持たせる指導を継続する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は教科書で扱われる英文を概ね正しく音読することができる。 ・新たに学んだ英単語や語順が定着していないため、正しく書いて表現することが苦手な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱う単語数の増加に適応できていない生徒がいる。 ・会話や発表など、話す活動は積極的に行うが、同じ内容を記述する際には消極的な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書き取り練習を継続して行い、生徒が自発的に新出文型に親しめるようにする。 ・複数の生徒による記述活動を行い、英語を書いて表現する学習内容を恒常的に取り入れて指導していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力調査において、すべての観点において目標値を上回っている。学習についてのアンケートにも積極的な回答をしている。 ・領域別では、すべての観点の達成率が前年度より上がっている。 ・場面に応じて書く英作文の問題でミスをした生徒が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる読解力・語彙力を身につけるために英文を読む機会を増やす必要がある。 ・授業にはどの生徒も意欲的に取り組んでいるが、英語が得意な生徒もいれば、家庭学習が定着していない生徒もいるため習熟度に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書以外のまとまった英文を読む機会を増やす。 ・音読後の暗唱や、問題演習後のプリントを確認するなど、生徒個々の課題を発見し、それに対応した指導を行うことを心掛ける。 ・ペアやグループで協力して学ぶ活動を継続して行い、理解を深めることができるようにする。